

# すぎなみ



vol.9

2025

令和7年10月発行

幼き頃のときめきが蘇る

オトナのための絵本カフェ

子どもたちの想像力を  
かきたてる出版社

杉並の会社が手掛ける  
スポーツ設備は、

国立競技場でも使用



杉並で見つける  
お気に入りの飲食店

すぎなみの味めぐり

杉並区

スポーツ・公園施設などの開発・販売を手掛けるファブレス企業「レイ高」

## 著名な競技場から学校・公園まで様々な施設に設備・器具を提供し、スポーツを陰から支える

あなたは『レイ高』という会社をご存じだろうか?

このユニークな社名は、創業者が自分と母親の名前を組み合わせてネーミングしたものだという。

たとえ社名やその存在を知らなかったとしても、おそらく多くの読者はこの会社が世の中に提供する製品を

知らず識らずのうちに目にしているはずだ。

なぜなら、それらの製品が多くの人々を夢中にさせるサッカーやラグビー、野球、テニスなどを陰から支えているからだ。

たとえば、2021年に開催されたオリンピックの「東京2020大会」で使用された国立競技場や有明テニスの森、

Jリーグチームのホームグラウンドになっているメルカリスタジアム(カシマサッカースタジアム)や日産スタジアム、味の素スタジアムなど、

数々の名勝負が繰り広げられてきたスポーツ施設にサッカーやラグビーのゴール、テニスポスト、

各種墨ベースやバッティングゲージなどを納入してきた。

しかも、著名な施設だけにとどまらない。杉並区をはじめとする様々な地域にある学校の校庭や公園でも、

サッカーゴールやバスケットゴール、鉄棒、砂場枠、ラインテープ、ポイント杭、ライン引き

などといった同社の多様な製品が使用されている。

アマチュアからプロまで、安全かつ円滑なスポーツ競技の進行をサポートする立役者なのだ。



固定金具は地面に埋め込み、チェーンを通してサッカーゴールを固定する。使わないときはゴムぶたをしておくことも可能。



生分解性プラスチックで作られたポイント杭「バイオポイント」。校庭やスポーツのグラウンドなどに目印として打つためのもので2024年度グッドデザインも受賞した。



幅跳びなどの砂場の周囲に設置される砂場枠。断面を見ると、アルミ製の受金具と、角を丸めて安全性にも配慮されたゴム枠のセットになっていることが分かる。



テニスポストやテニスネット、またコートブラシなどのコート整備用具などのテニス関連製品は創業期から取り扱っており、ラインナップも豊富。

← レイ高のサッカーゴールは区民など多くの人に利用されている。表紙・p.1の写真は杉並区下高井戸運動場のグラウンドに設置されたサッカーゴール。



### ■企業情報

- 会社名:株式会社レイ高
- 所在地:167-0052 杉並区南荻窪4-10-12 レイ高ビル
- 代表取締役:松井基展
- 創業:1975年
- 事業内容:スポーツ・公園施設器具等の開発・販売
- TEL. 03-3334-1101
- <https://www.rui-taka.co.jp/>



## 今で言えばスタートアップとして創業。 テニスを発端として、サッカーなどの 様々なスポーツに関連する製品を展開へ

テニスコートにネットが張られ、サッカーコートにゴールが設置されているのは当たり前。普段、プレイする側の多くはそのような感覚を抱いていることだろう。だが、品質が悪くてたわみが目立つようなネットではフェアな競技が難しいし、雨風による腐食に弱かったり、倒れやすかったりするゴールポストでは危険極まりない。テニス関連の用具・器具から事業をスタートさせたルイ高は、知恵や工夫を凝らした営業活動と製品開発を通じて、サッカーをはじめとする様々なスポーツの関連製品に手を広げ、高い評価を獲得していった。

### 1970年代半ばにベンチャーとして起業 第二次テニスブームに乗って成長を遂げる

ルイ高の前身である個人事業のルイ高商会が杉並の地で創業したのは1975年のことで、その2年後には法人化して本格的に事業を立ち上げた。現代風に言えば、いわゆるスタートアップ(ベンチャー企業)で、創業者で現相談役の松井高芳さんは、テニスのボールやネットを販売するビジネスを思いついた。

当時の日本では、軽井沢のコートで愛を育んだ皇太子(現上皇)ご成婚による第一次ブーム(1950年代後半)に続き、第二次のテニスブーム(1970年代後半~1980年代)が発生していたからだ。1975年の全英オープン女子ダブルスで日本人選手が優勝したことによって、ボルグ選手やマッケンロー選手といった世界的なスターの活躍や、漫画「エースをねえ!」のヒットも追い風となって、国内でも各地に会員制のテニスクラブが誕生した。

杉並を創業の地に選んだのは、関東圏に点在するテニスクラブの中心的な場所に位置し、効率的に営業活動を行えると考えたからだ。多くのブームはいつか過ぎ去ってしまうものだが、「テニスは生涯スポーツで、シニアになってからも楽しめるから息が長い」というのが松井高芳さんの算段だった。あいにく、すぐさまビジネスが軌道に乗ることはなかったものの、知恵と工夫で販路の拡大に成功し、次第にルイ高の事業規模は拡大していった。

数十年にわたりテニス関連製品を納めているクラブもある。写真の武蔵野ローンテニスクラブ(杉並区高井戸西)へは数十年にわたり製品を納めている。



従来の鉄棒は錆びやすかつたため、ルイ高はステンレス鉄棒を開発。



杉並区立松溪中学校に設置されたステンレス鉄棒

### 1990年代からサッカーをはじめとする 他のスポーツにも手を広げて高い支持

1990年代を迎えて、テニス関連製品に続いてルイ高が新たに手を広げたのはサッカー関連だった。もっとも、「テニスに続く次の注目はこれだ!」と直感が働いたわけではないようだ。たまたま、テニス関連の取引先からサッカーコートの整備について相談を持ちかけられたのがきっかけだという。さらに、学校や公園向けの鉄棒やラグビーゴール、バスケットボールなど、他のジャンルも次々と開拓した。

そして、早くも1991年にはサッカーゴール、その翌年にはステンレス鉄棒が連続でグッドデザイン賞(教育用品部門)を受賞。さらに製品のデザイン性が評価されるだけでなく、1991年に収納式サッカーゴールが実用新案登録され、翌年には起倒式ラグビーゴールが特許を取得するなど、技術面においても大きな強みを発揮している。

さらに、この会社にとって絶好の追い風となったのは、1991年に発足し、1993年に開幕したJリーグだった。日本各地のサッカーコートに納入先が拡大。そのおよそ9年後の2002年に日本と韓国で開催されたFIFAワールドカップでは、主要7会場においてルイ高のサッカーゴールが採用された。以来、この特集の冒頭でも触れたように、今日では多彩な競技において高い支持を獲得している。



## 働く本音を聞きました

日々、会社で働く方に直撃インタビュー。  
働き方や仕事のやりがいなどを聞いてみました。



御社の良いところって  
何ですか?

——普段どのような仕事をしていますか。

**小林:** ルイ高では外勤営業と内勤営業が連携しています。私は外勤で、大小のスポーツ店などの担当です。例えば小学校がスポーツ備品を必要とする場合も、私たちが回るような、地域のスポーツ店を通して購入されていますよ。また運動施設に行くこともありますね。

**神山:** 私も外勤で、スポーツグラウンドを作る建設会社や設計会社などが担当です。弊社の製品を説明したり、施工の打ち合わせをしたりしています。私の前任者は、国立競技場の全面改築の際に納品などを行っていました。私もその後、国立競技場に行って話をすることがありますね。

**川田:** 私は内勤です。社内において、見積書の作成や、お客様からのお問い合わせ対応などの事務的な仕事です。また外勤の営業のサポート業務などもしています。

——御社は他業種からの転職者も多いそうですね。

**神山:** 前職は人材系の営業でしたね。ただスポーツが好きで挑戦したいなと思いました。私自身はバスケットボールをずっとやっていて、今でも見るのは好きですよ。最近、Bリーグが盛り上がっているのは嬉しいことです。

**川田:** 私は以前は飲料メーカーの営業でした。やはりスポーツは好きで、入社以前からフットサルをやっています。フットサルでは、杉並区の体育館も利用していますよ。

**小林:** 私はスポーツ全般が好きですが、特にサッカーが一番好きです。前職は郵便局員でしたが、スポーツに携わる仕事がしたくて入りました。

### 社内で連携しながら対応

——これまでにどんなお仕事をされてきましたか。

**川田:** 先ほど神山さんの話に出た国立競技場の仕事に携わったことは印象的でしたね。内勤だと現地で施工に立ち会ったり、お客様の顔を見たりすることもありません。けれど社内で、お客様からのお問い合わせや、外勤営業からの相談に応える中で、やりがいを感じられます。

**小林:** 弊社のサッカーゴールは、Jリーグのスタジアムの約9割に採用されています。2002年のサッカーワールドカップでは、日本の全10会場のうち7会場までが弊社のものでした。そこで未採用だった会場の

一つ、茨城県立カシマサッカースタジアム(Jリーグ・鹿島アントラーズのホームスタジアム)に納品したことは印象的でした。

**神山:** 私はこのメンバーの中では一番社歴も浅くて、知識量や経験を増やすためには、苦労もあります。ただ弊社には過去のデータや、製品の資料などもそろっていますし、お客様からのお問い合わせがあれば、それを見たり、先輩に聞きながら対応しています。また仕事で大きなスポーツ施設に行ったりするのは楽しいですよ。本社のある茨城はアクセスも良く、営業でも便利ですね。

——お客様からのお問い合わせも多いそうですね。

**神山:** 例えば会社や施設の担当者が私のように社歴が浅いと、過去のやり取りを知らないかもしれませんよね。そういうときも、その会社や施設の中では「ルイ高さんなら知ってるはずだよ」と共有されているようですね。「とりあえずルイ高さんに聞いてみれば大丈夫だよ」と。

——そこで営業内で連携して対応していくのですね。

**小林:** 我々、外勤はお客様からのご要望を聞き、それを内勤の方に「会社として対応可能か?」などを確認しています。"丸投げ"にするのではなく、ちゃんとご要望を自分の中で整理した上で伝えることを意識しています。

**川田:** 内勤としては、できるだけスピード感のある対応を心掛けています。また「これは直接、お客様のもとで聞いてもらったほうがよいのでは」ということは伝えますし、ちゃんと社内で情報を共有することも大切にしています。

### 仕事の中で好きを見つける

——最後に仕事で大事にしていることを教えてください。

**川田:** 小さくても楽しいことを見つけ、またそれを自分で作り出せるといいと思っています。またプライベートを充実させることも大事ですよね。

**神山:** 私も仕事の中に好きなこと、楽しいことがあるのは大事だと思います。

**小林:** スポーツが好きなので、好きなことに関われているのは楽しい。仕事と趣味の混同ではありませんが、可能なら好きなことを仕事にすることは重要だと感じています。



営業 小林大樹さん



営業 神山裕希さん

## 熱心さを突破口に未開拓分野に飛び込んだ創業期

「右も左も分かりませんでしたし、苦労しました」と創業期を振り返った松井高芳さん（現相談役）。兵庫県で生まれて、縁もなかった杉並区にやってきたのは28歳の頃だった。

創業期をけん引したテニス製品の販売ビジネスにしても、自身がテニスをやってきたわけではない。「私は野球をやってきました。テニスはまったくの素人でしたね」と松井さんは話した。しかし、そこからはテニスに深い縁を持つことになった。

創業期は休みも忘れるかのように、関東圏のテニスクラブを回った。相手から話を聞きながら、ノウハウを学んでいった。テニスコート一つとっても自然排水のために片面勾配にする国際ルールなど、細かなことで知り、それをまた別のテニスクラブへと伝えた。インターネットのない時代だ。松井さんの持っていく新鮮な情報はテニスクラブの社長たちに喜ばれた。

知識は増えていき、雑誌社からも「彼はテニスクラブの情報をよく知っている」という評判を受けていたという。もちろん直接のお客様からも高い評判を得ていった。足しげくお客様のもとへ通い、そこから次の仕事へとつなげていった。

「やはり熱心さに勝るものはないですよね」

製品ラインナップはどんどんと増えていった。テニスボール、コートブラシ、テニスネット……。

ネットについてはこんなエピソードもある。実はきっかけの一つが漁業なのだと。あるとき魚介類を



相談役の松井高芳さん

捕まえるための漁網の需要が減り、網の生産業者が困っていると聞いた松井さん。そこで思い付く。「スポーツ用ネットを作ってもらったらどうか」。このアイデアを具体化させ、実際に生産・販売につなげていった。一体どこで何がつながるか分からない。

現在、ルイ高は業界で「サッカーのルイ高」としても知られるという。ルイ高はJリーグ発足よりも前にサッカーゴールの開発に踏み切っていた。「運が良かった」と話す松井さん。結果的にはJリーグ発足が追い風にもなったからだ。松井さんは「その運をものにした」と続けた。その基盤には、テニス製品で培ってきたお客様からの信頼と、何より熱心さがある。

### ■ルイ高の歩み

1975(昭和50)年 ルイ高商会として個人創業	1994(平成6)年 福岡営業所開設
1977(昭和52)年 株式会社ルイ高商会を設立	1999(平成11)年 ISO9001を認証取得
1981(昭和56)年 名古屋営業所開設(現:中部支店)	2001(平成13)年 設立25年。社名を株式会社ルイ高に改称
1984(昭和59)年 仙台営業所開設(現:東北支店)	2002(平成14)年 FIFAワールドカップ2002主要7会場にサッカーゴール等採用
1985(昭和60)年 関西支店開設	2006(平成18)年 バスケットボードパンチングがグッドデザイン賞を受賞
1990(平成2)年 本社社屋竣工	2011(平成23)年 スポーツ器具のアルミ化推進などを評価されエコマークアワード2011奨励賞を受賞
1991(平成3)年 サッカーゴールポストがグッドデザイン賞を受賞	2024(令和6)年 ポイント杭バイオポイントがグッドデザイン賞を受賞
1992(平成4)年 ステンレス鉄棒がグッドデザイン賞受賞	

## 「高品質・安全・サステナブル」な設備・器具を提供し続けることにこだわり、スポーツの振興と持続可能な社会の実現に貢献



代表取締役の松井基展さん

### 耐久性が高く軽量なアルミが鉄棒やサッカーゴールの安全性を高める

現在、ルイ高の代表取締役を務める松井基展さんは、2015年に父親の高芳さんからバトンを渡された。大学卒業後はいったん異業種で社会人としての経験を5年程積み、入社後10年経過してのトップ就任だった。

「子どもの頃は、父がどんな事業に取り組んでいるのかがよくわかつていませんでした。まだ個人経営に近い規模に過ぎず、自宅の中に製品の在庫が山積みされていましたね。わかつていたのは、とにかくスポーツに関係する仕事らしいということだけでした」

そういった環境で育ったせいか、プライベートでもスポーツ観戦が趣味の一つだという基展さん。トップとして会社を率いていく上で、自社が取り扱う製品の品質の高さと安全性にこことこだわっているという。

高いレベルのプレイが繰り広げられ、激しいぶつかり合いでケガのリスクも高いプロ向けの施設・器具では、品質の高さや安全性は大前提だろう。校庭や公園などに設置されたものについても、子どもたちが接するものであるだけに、品質と安全性を突き詰める必要があるのだ。

「校庭に設置された鉄棒などの遊具は、風雨にさらされるので錆びによる劣化が天敵となっています。そこで、当社で

は鉄棒のアルミ化を推進してきました」(基展さん)

サッカーゴールも然りで、過去にも倒れて子どもが死傷する事故が多発したことがあった。こうした悲劇を防ぐ上でも、アルミ素材の採用が大きな力ぎを握っている。

「鉄製だった昔のサッカーゴールは約200kgもの重量がありました。が、アルミ化した当社の製品は100kg弱にとどまっています。そして何より、鉄製と比べて耐久性が格段に向上しています」(基展さん)

ルイ高では、チェーンで簡単にサッカーゴールを固定できる金具も開発。転倒事故の注意を喚起する啓発活動に取り組んだことなども評価され、第11回キッズデザイン賞特別賞「東京都知事賞」を受賞している。

### 環境に優しい素材にもこだわりながら、次代のスポーツ愛好家をサポートしていく

さらに、環境対策にもこだわっているという。先述した製品のアルミ化は耐久性を向上させて長く使用できることにつながるし、軽量だから運搬時に自動車から排出されるCO<sub>2</sub>が削減される効果も期待できるだろう。他にもリサイクル素材の活用や、従来は木製だった素材を環境負荷の低い代替品に切り替えることなどにも力を入れている。

「校庭にラインマーカーとして埋めた鉄製の釘やポイントで子どもがケガをする事故が杉並区の小学校でも発生しました。この問題を踏まえて当社が開発したのがバイオポイントで、歳月とともに分解が進み、やがては土に還る生分解性プラスチックを使用しています」(基展さん)

地球に優しい素材を用いることで、安全性とともにサステナビリティ(持続可能な社会の実現)にも結びつけているわけだ。基展さんの一家も杉並区在住で、小学一年生の長男もラグビーに夢中のスポーツ少年だとか。

「少子高齢化が進み、それに伴ってスポーツ人口は減少傾向にあります。とはいって、いつの時代もスポーツを楽しみたい人、スポーツを極めたい人は必ず存在するものです」

こう熱く語る基展さんは、今後も「高品質・安全・サステナブル」な施設・器具を追求し続けることだろう。

# 絵本

k a i

今日は、絵本愛に満ち溢れる杉並区の会社とお店を紹介します。  
見た途端に目の奥に焼きつくような印象的な絵画と、  
頭の中で想像力をたっぷりと働かせながら、  
誰もが絵本の世界へと没入していったことでしょう。  
まだ自分で字が読めない頃はオトナから読み聞かせてもらい、  
その脇に添えられているテンポのいい言葉。

## 絵本館 (えほんかん)

ワクワクしながら「分からない」を楽しむ  
想像力をかき立てる絵本を作る出版社



有川裕俊さん(中央)と  
スタッフ。他にも多くの  
外部スタッフと連携して  
いる。



装飾はオフィス内にも。  
デスクには現在制作中の  
絵本の原稿類がある。



玄関を入れると絵本作品をモチーフにした飾りがたくさん。



サイズが定型でないことも特徴。  
効率よりも絵の良さを引き立てる  
絵本作りをしている。

荻窪の出版社で、名前とおり絵本を作っている。荻窪を選んだ理由は何かあるかと聞くと「ないねえ」とおどけるのは代表取締役の有川裕俊さん。とはいっても歴代の事務所はすべて区内。29歳での創業時は杉並区清水の一軒家を借りた。

出版経験はなく、ゼロからのスタートだった。ゼロだったからこそ教えてもらおうと多くの絵本作家に電話をかけた。「今からくる?」と言ってくれたのが五味太郎さん。その後、年80ほど通い、影響を受けた。長新太さん、高畠純さん、佐々木マキさん、tupera tuperaのお二人など、多くの作家の知己をえ、47年で出版した絵本は255点にのぼる。

「絵本には起承転結が大事とよく言われる。しかし僕はこれは勘違いだったと思う。起承転結がガッチャリしていると、隙間がなくなる。文も絵もその隙間をともに読む。そこに絵本の『たのしみ』が隠されている。隙間や欠落にこそ想像力が生まれ、



制作中の絵本のカバーの校正紙。印刷の色味は出来上がりを左右する重要な要素。

- 社名:株式会社 絵本館
- 所在地:〒167-0051 杉並区荻窪5-16-5
- 代表:有川裕俊
- 設立:1978年
- 事業内容:絵本・カレンダー・かるた等の出版
- https://ehonkan.co.jp/



「私はちょっと人見知りするタイプだし、絵本のことは“まどかさん”に聞いてください(笑)。開店当初は絵本カフェがまだほとんど存在しませんでしたし、『オトナのための』と銘打っていたのに、子ども向けの店と勘違いして『キッズメニューは?』と聞かれたこともありますよ」

オトナなら誰もが懐かしくなる絵本が勢ぞろいで読み放題だから、開店とともに着席し、閉店時間までひたすら読みふける人も……。季節などに合わせて本棚に並べる絵本のラインナップを変えており、いつ訪ても飽きない。「おつきさまのパンケーキ」(950円)のように絵本に出てくるメニューもある。絵本作家とのコラボで期間限定の原画展も頻繁に開催し、作品に関係した特別メニューも登場。

## ムッチーズカフェ (muccchies cafe)

店内いっぱいに絵本愛が溢れ出る!  
童心に帰りたいオトナのための絵本カフェ



店内には、数々の絵本とともに、  
様々な関連グッズが所狭しと並べられている。

むっちさん(写真右)とまどかさん(写真左)は大学時代からの親友同士だ。



「おつきさまのパンケーキ(真珠まりこさん作・ほるぶ出版刊)」に出てくる逸品を再現した当店の人気メニュー。随时開催のイベントとの期間限定コラボメニューも、作家のファンや常連客の間で評判。



大学時代に同級生だった“むっちさん”と“まどかさん”が2016年1月に高円寺で開業した「オトナのための絵本カフェ」で、2020年11月に西荻窪(現住所)に移転してリニューアルオープン。お店のイメージキャラクター担当である“むっちさん”に対し、幼少期に読み聞かせもらって以来、絵本の世界にすっかり魅了されて絵本専門士の資格も取得しているのが“まどかさん”だ。

「子どもの頃から大事にしてきた蔵書を大学生になってから読み返してみて、改めて絵本の魅力を痛感し、特にお気に入りの一冊である『はらぺこあおむし』を大学時代の研究テーマにしました。その作者であるエリック・カールさんが来日し、実際にお会いできて感激しましたね」

絵本愛について語りだしたら止まらない“まどかさん”的ことを、脇から“むっちさん”が優しい笑顔を浮かべて見守っている。この二人のコンビネーションが居心地のいい店内の雰囲気を醸し出しているようだ。



さりげなく店内に飾られて  
いたのは、人気の絵本作家  
たちが寄せ書きしたミニ  
サッカーボール。

- 店名:ムッチーズカフェ
- 所在地:〒167-0042 杉並区西荻北5-22-6
- 開店:2016年
- 事業内容:大人向け絵本喫茶
- TEL. 03-5364-9190
- 営業時間:11:00~19:00(L.O.30分前)
- 定休日:水・木曜日
- https://www.instagram.com/mucchis\_cafe/



# すきなみの 味めぐり

## JULES VERNE COFFEE



写真はドリップコーヒーとフルーツサンド。フルーツサンドのフルーツは季節により異なるが、いずれも「単体でもおいしいものを選んでいる」そう。フルーツの表情も鮮やかな断面は、毎日研ぐパン切りナイフや、オーナーの彰一さんの腕によるもの。「シンプルなものの大目に、シンプルに見えたとしても奥深い技術がある。」

## Yazetto – agri cafe –



新店舗も老舗も、どこか個性派ぞろいの杉並区。  
まわりの人たちと楽しんだり、一人でリラックスしたり。  
お気に入りの味わいを見つけに街を歩いてみてはいかがでしょうか。

### 高円寺と阿佐ヶ谷の真ん中で、想像力の広がるコーヒーを

店名は同名のSF作家にちなんで、「コーヒーを飲みながら『このコーヒーはどんな旅をしてきたのかな?』などと想像力を膨らませてほしい」と話すのはマネージャーの小山亜希子さん。夫でオーナーの彰一さんは焙煎技術の全国大会「ローストマスターズチャンピオンシップ」で団体優勝をした経験を持つ。店にはカフェも併設されているが、軸足はコーヒー豆販売に置く。扱っているコーヒー豆は毎朝、彰一さんが焙煎したものだ。店のある高円寺アパートメントは、以前はJR東日本(東日本旅客鉄道)の社宅だった。賃貸住宅として改装するにあたり、店舗も入ることになった。当時、茨城県で店を開いていた小山さん夫妻。移転を検討していたタイミングで募集を知った。電車も近くに走る街中にありながら、芝生が敷かれ空が見えるというロケーションを気に入り、移転を決めた。店には、スマートフォンのせわしない時間とは真逆の、ゆったりとした時間が流れている。

- 所在地:〒166-0002  
杉並区高円寺北4-2-24  
アールリエット高円寺A106
- TEL: 03-5356-9810
- 営業時間:12:00～17:00
- 定休日:月曜日、火曜日、他臨時休業有り



## 創業スタートアップ助成でサポート!

杉並区では「創業スタートアップ助成事業」を行い、スタートアップの中小企業を支援しています。この助成事業は事業者を支え、区内産業の促進を目的とするもの。活用した多くの事業者が魅力ある事業を創り出しています。



詳しくはホームページをご覧ください↑

### 日本人シェフによる本格的なインド料理

ビリヤニはインドの焼き込みご飯で、密かに日本でもブームになっていることをアピールしたかったので、ユニークな漢字の店名にしたという。マトンと言えば、独特の風味が苦手だと感じる人もいるだろう。だが、その上質なスネ肉をホロホロになるまで煮込み、ミントの香りでアクセントをつけて仕上げているので、まったくクセを感じさせない。このマトンの上にインドの主食であるバスマティライスを重ね、さらにクミンやカルダモンなどのふんだんなスパイスとともに炊き上げたのが当店自慢の骨付きマトンビリヤニ(2,000円)だ。小さなフォークでかき出して食すスネ肉の骨髄部分も絶品。それと人気を二分するチキンビリヤニ(1,600円)も必食モノ。ビリヤニ向けのトッピングメニューも充実しているし、サイドメニューやドリンクメニューもそろっているので、夜に訪れるのもオツだろう。

- 所在地:〒166-0015  
杉並区成田東5-20-6
- 営業時間:  
11:30～14:00  
18:00～20:30
- 定休日:木曜日



### むじな ビリヤニ貉



もともと会社員だった店主だが、趣味の料理を生かして何かを始めるなら今が好機だと一念発起して開業。人気を二分している骨付きマトンビリヤニとチキンビリヤニのハーフ&ハーフ(写真上・2,000円)もオーダーできる。バクチーやオニオンスライス、フライドオニオン、ライタ(ソース)の追加は100円。平日はビリヤニ各種が200円引きに。ティックアウトも受け付けている。



### 老若男女が気軽に楽しめるカジュアルイタリアン

実直な職人のシェフと、とても気さくな奥様が2人で切り盛りしているカジュアルなイタリアン・レストランで、2024年10月にオープン。老若男女を問わず楽しめるアットホームな雰囲気で、本格的なイタリアンを気軽にリーズナブルなお値段で堪能できる。そのため、親子連れはもちろん、祖父母から孫まで3世代そろっての会食を楽しむケースも多いとか。さらに、ペット同伴OKなのもウレシイ。パスタもしくはピザにサラダがセットになるランチメニューだけでなく、ランチコース(3,200円)も用意。夜はアラカルトのメニューも豊富だが、カルパッチョ、ローストビーフサラダ、パケット付きアヒージョ。ピザ、パスタ、牛肉のタリアータに2時間飲み放題のドリンク付きで5,800円のパーティープランが超おトク。名物の一つは特大サイズで容量1リットルの海賊ジョッキで、ビールだけでなく、他のドリンクでもオーダー可能。

- 所在地:〒168-0074  
杉並区上高井戸1-29-4
- TEL: 03-6379-7832
- 営業時間:  
11:30～14:30(L.O.14:00)  
17:30～22:00(L.O.料理21:00)  
ドリンク21:30)
- 定休日:月・火曜日



### モンクル Moncru



写真上の料理は、左が自家製ローストビーフがたっぷりと入ったモンクルサラダ(1,400円)で、右がキーマカレーピザ(1,480円)。おつまみ(ワインフード)やスイーツも充実。ビールやワイン、各種サワー、ノンアルコール飲料などのドリンク類も含め、いずれのメニューも非常に良心的なアンチ・インフレ(物価高)の価格設定で、幅広い客層から高く支持されているのも納得!



すぎなみ産 発刊にあたって

## 杉並の仕事は面白い！

約20,000の事業所と、その仕事。

「すぎなみ産」は、杉並区に産まれた仕事を集めました。

自然と生活が混じり合う、暮らしやすいこの街に、

多種多彩な産業は結びついています。

面白がってて、面白い。

好きなことを楽しんでやって産まれた身近な物事。

杉並発の産業は、こんな顔立ちでした。

杉並の仕事は面白い！



### 杉並区産業振興センター

〒167-0043 杉並区上荻1-2-1 Daiwa荻窪タワー2F  
TEL.03-5347-9077(就労・経営支援係)

杉並区内産業のさらなる発展を図るため、区内産業団体(東京商工会議所杉並支部、杉並区商店街連合会、杉並産業協会)と同じフロアに設置した区の産業振興部門です。それぞれの団体と連携しながら、商店街や中小企業の支援、観光・アニメ事業の推進、都市農業の振興など、区内産業の活性化に向けた取り組みを行っています。

#### ■主な取扱業務

- 中小企業資金の融資あっせん
- 創業・経営相談
- 就労支援、中小企業支援、勤労者支援
- 商店街の各種支援事業
- 観光事業の推進、アニメの振興
- 特定商業施設に関する届出
- 都市農業の振興、区民農園の管理



### 杉並産業協会

〒167-0043 杉並区上荻1-2-1 Daiwa荻窪タワー2F  
TEL.03-3220-1231

杉並区内の法人および個人を中心とした事業主で組織運営されている唯一の産業団体です。労働保険事務組合として労働保険の取り扱いも行っています。会員企業には労働保険事務組合への加入の他にも従業員福利厚生のための健康診断、レクリエーションの企画や事業主の皆様には優良工場見学、講演会、賀詞交歓会等の開催などを行っています。

#### ■主な取扱業務

- 関係官庁に対する届出書類の記入代行・指導
- 労働保険事務組合の運営
- 講演会・交流会の開催
- 団体への表彰者の推薦
- 会員企業に勤める従業員の方への福利厚生事業
- 会報の発行
- 会員間の親睦事業

すぎなみ産 vol.9 令和7年10月発行

編集・発行:杉並区産業振興センター  
〒167-0043 杉並区上荻1-2-1 Daiwa荻窪タワー2F  
TEL.03-5347-9077

登録印刷番号  
07-0063

制作:スタッフ

クリエイティブ・ディレクター／アート・ディレクター:岸部浩三  
ライター:大西洋平  
ライター・エディター:三坂輝  
カメラマン:豊田佳弘(p2~6)



「すぎなみ産」のバックナンバーは  
こちらでご覧いただけます。→

